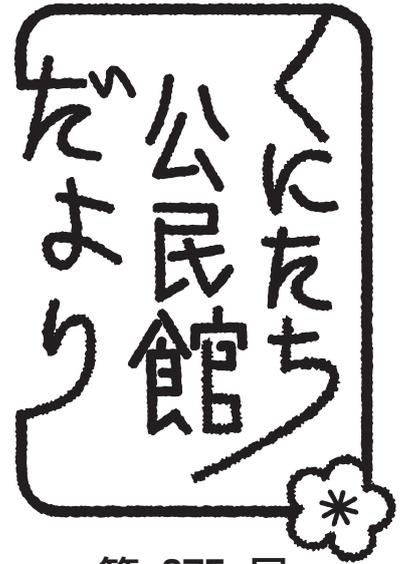
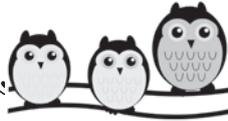


28年度の公民館講座・催し 一年間予定



第 675 号

2016年5月5日

(平成28年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

今年度の公民館講座・催しの年間予定をお知らせします。昭和30年から脈々と受け継がれてきた公民館の講座は、①現代社会の課題を考える講座、②共生の地域社会を育む講座、③まちを知る、地域から学ぶ講座、④社会をみつめ、文化をつくる講座、⑤表現と創作を楽しむ講座に大きく分かれています。

これらは、市民の声、講座受講者の感想、公民館運営審議会の提案などの意見を受け取り、いま求められているのはどのような講座か、また時代が変わっても大切な講座とは何か、そして公民館の役割とは何かを考え、検討してきた事業計画です。今年度も魅力的な講座を実施していきますので、ぜひ公民館にお越しください。

①現代社会の課題を考える

- 平和……………6月
- 多文化共生……………7月
- 人権……………7月
- 憲法……………7月
- 環境……………7月
- 教育……………7月
- 近現代史……………8月

②共生の地域社会を育む

- 中高生のための学習支援……………4月
- にほんごサロン……………4月
- 男性の料理(親子)……………4月
- 青年講座・青年室活動(コーヒーハウス)……………4月
- しようがいしゃ青年教室(募集終了)……………5月
- 生活のための日本語(募集中)……………5月
- 女性のライフデザイン……………5月
- シルバー学習室(募集終了)……………5月
- 親子で遊ぼう考えよう……………6月
- しようがいしゃパソコン……………6月
- 老いとケア……………6月
- 恋愛と結婚(青年対象)……………9月
- ワークライフバランス……………9月
- 日本語教育入門……………12月
- 世代間交流……………12月
- 母と娘のむずかしさ……………1月

③まちを知る、地域から学ぶ

- 緑化活動……………4月
- 一橋大学との連携講座……………5月
- 地域史……………6月
- 公民館利用者交流会……………7月
- 市民防災学習会……………9月
- 学びのデザイン……………9月
- 地方自治……………10月
- 社会教育学習会……………11月
- 冬鳥観察……………1月

④社会をみつめ、文化をつくる

- くにたちブッククラブ……………5月
- 古典を読む……………6月
- ヒトの心を探る……………7月
- 作家と作品研究……………8月
- 哲学……………1月
- 図書室のつどい……………毎月
- 映画会・映画の話……………毎月

⑤表現と創作を楽しむ

- 市民文化祭……………4月
- しようがいしゃとつくる陶芸(募集終了)……………5月
- 身体表現(募集中)……………5月
- 銅版画……………1月



親子で遊ぼう考えよう—風船あそび



多摩川周辺での冬鳥観察

60周年記念
事業報告

「ともに歩んで60年―深まる学び、ひろがる明日―」

記念事業の概要と取り組み

国立市公民館60周年記念事業実行委員会

新リリース「Facebook」
〈広報部会〉

公民館60周年記念事業は、2015年4月、館の呼びかけに応えて集まった大勢の市民による実行委員会の活動で始まり、委員はまず60周年に寄せる想いやこの節目に市民に伝えたいことなどを出し合い、議論を重ね、「ともに歩んで60年―深まる学び、ひろがる明日―」というテーマを決めました。具体的な事業は3部会(イベント・記念誌・広報)に分かれて企画を練り、実行委員と職員が力を合わせて行いました。事業内容と取り組みの概要を部会ごとに報告します。

パネル展と連続シンポジウム
〈イベント部会〉

イベント部会は、公民館の60年間にわたるあゆみと変化を捉え、現在の公民館を知り、これからを考えようと、パネル展・連続シンポジウムを企画しました。パネル展は10月下旬の1週間口ビーで開催。①2004年度まで



シンポジウムⅡ

を範囲とする「50年のあゆみ」と②2005年度以降の「この10年」のコーナーに分け、①は年譜を中心に、②は講座などのテーマ分野別一覧の展示により、現在の公民館を捉えてもらおうと考えました。また映画『町の政治』などの上映、新旧市内風景の写真、公民館保存資料なども展示しました。

パネル展初日、同会場で、シンポジウムⅠ「公民館の誕生、そして」
11月3日、記念式典に続き、シンポジウムⅡ「現在から未来へ」を地下ホールで開催。「第三世代」として、現在活動する6団体のお話を聞いた後、「公民館の夢と希望を語ろう!」のワークショップで熱い議論を交わしました。そこでは具体的な意見・提案が多数出され、今後の課題となりました。

記録を読み取り、考えよう
〈記念誌部会〉
記念誌部会は、次の点をねらいとしました。
① 公民館を支えてきた原点を簡明に記す。

② この10年間の学習・講座・活動の企画・実践の記録を残す。
③ 講座企画、参加者の声、サークル紹介の3点セットを、分野のバランスを考慮して選択する。
④ 市民の声を多数とりあげる。
⑤ 事業の発展を視覚化する。

記念誌の構成は次の4章としました。
第1章 公民館を支える市民の力
第2章 講座からひろがる市民の学び―この10年―
第3章 歴史をたどり次世代へ―60周年記念事業の記録―
第4章 資料編
年表/学習のひろがり/主催事業一覧/サークル活動紹介一覧など

10周年ごとの記念誌作成の主たる拠り所は、日々の活動を記す「公民館だより」と「図書室月報」です。この積み上げられた資産と記念誌が、市民の考える源泉として活かされ、公民館と市民の学びが発展していくことを願っています。

広報部会は、公民館の利用方法をわかりやすく伝え、公民館の魅力や意義を利用者の立場から表現することをねらいとして、新しいリーフレットの作成やFacebookの運営を行いました。

部会が活動を始めた時の意見交換で、未来を担う若い人たちにバトンを渡していくためには、まず新しい利用者を増やさなければならぬ、という話になりました。そして、公民館をまだよく知らない地域の人々に伝わりやすいよう、歴史や理念はなるべく平易に、実際の講座やイベントの様子などは写真を使うなど、工夫をしました。その中で大切だと思われたことは、今日の公民館を形作ってきた柱、理念の言語化と、またそれを知らない人たちにどう説明するのか、というものでした。

Facebookページの作成も、そうした趣旨で企画されたものです。なるべく多くの人に、くにたち公民館のことを知ってもらいたい、そんな思いで日々取り組みました。リーフレットは他市のものも参考に、コンパクトなデザインやくにたち公民館を支える「5つの柱」

を打ち立てることでわかりやすく表現しました。

新リーフレットは、初夏には完成の見通しです。お楽しみに。

実行委員会では、初回から各委員の60周年に向けての熱い思いが溢れ、続く各部会でも活発な議論がたたかわされる中で、盛りだくさんの記念事業を実施することになりました。

公民館を取り巻く社会の状況は50周年当時と比べても厳しさを増しています。この記念事業がくにたち公民館の歴史と市民にとっての役割を振り返ることを通じて、公民館のこれからを考える手がかりになること、そして公民館がより広く市民の力になっていくことを願っています。

実行委員会委員

富田和枝(部会長)、

今村和義、谷美穂、

山崎由紀子

記念誌部会

大井利雄(部会長)、

佐藤節子、

広報部会

入山頌(部会長)、

小原正子、

望月康男、森田正、

山家利子(委員長)

60人の声

公民館60周年に寄せて⑥

公民館60周年にちなみ、公民館に縁のある60人の市民・関係者による、公民館へのメッセージ集の連載です(掲載順不同)。
※今回が最終回です。

人との出会いに感謝

岩知道浩子(画家) 元公民館運営審議会委員

仕事が休みの日には幼い息子を連れ、家族で公民館の図書室に行くのが日課でした。自然に職員の方とも言葉を交わすようになり、それは私のささやかな楽しみの間でした。あれから数十年、水彩画サークルや公運審委員としてもお世話になりました。昔も今も変わらない公民館の空気に安堵しつつ、人との出会いに感謝です。

業を知ることができました。昨今の、少子高齢化に伴う地域の活力や家庭の教育力の低下など様々な課題に対して、地域コミュニティの核として支援事業を展開している公民館の今後に期待しております。

シティズンシップの学習を

富田和枝(公民館運営審議会委員)

くにたち公民館の財産とはなんだろう。文教地区指定から始まるまちづくりの中で市民の最初の希望で生まれた公民館。創成期の市民たちが教養講座につめかけ、幾多のサークルをつくり、地区単位で読書会を始めた婦人会もある。70～80年代に「公民館に育てられ(た)」と語る何人もの女性の声を聞く。財産は、おとながシティズンシップを身につける学習を延々と60年間続けてきたことではないか。今現在にいる私たちにとっても、手放してはいけないことだと思う。

国立公民館の特徴は、市民が学習の場を職員と共に創ったところにある。戦後の平和と民主主義を学ぶ場として公民館が必要だった。その後、若いミセスの教室・保育室、障害者青年学級・わいがや、外国人のための日本語教室、シルバー学習室もそうだ。それぞれの時代に必要とされたものを学習、交流、活動していく過程にあった。つまり、その空間(存在)を獲得するための学習を含めたプロセスの「組織化」に意味がある。そこには必ず魅力的な専門的な職員がいた。

公民館とのかかわり

戸井田展(公民館運営審議会委員)

国立駅から富士見通りを通じて職場に向かいます。前を通り過ぎるだけだった公民館とかわりをもつきっかけとなったのが公民館運営審議会でした。そして、この審議会を通して公民館の歴史や事

青年室について

長澤勇氣(元喫茶わいがやスタッフ)

オレ青年じゃないし、と思ってた。青年を自称する青年はいない。おっさんにもなりたくなかった。おっさんは青年を語ることができる。ローカウターの内側で珈琲を落とし、店の横にある青年室に出入りしながら、私は青年でもおっさんでもなかった。何者と呼ばれたくもなかった。そのようにして、そこは私の居場所だった。それから10年。私は何者かになつただろうか。国立を離れ、公民館から足は遠のいたけれど、今でもそこは、私のための場所である。

国立公民館とは

平林正夫(元公民館職員)

国立公民館の特徴は、市民が学習の場を職員と共に創ったところにある。戦後の平和と民主主義を学ぶ場として公民館が必要だった。その後、若いミセスの教室・保育室、障害者青年学級・わいがや、外国人のための日本語教室、シルバー学習室もそうだ。それぞれの時代に必要とされたものを学習、交流、活動していく過程にあった。つまり、その空間(存在)を獲得するための学習を含めたプロセスの「組織化」に意味がある。そこには必ず魅力的な専門的な職員がいた。

国立公民館との付き合い

降矢洋子(画家)

『主婦とおんな』の刊行に至った市民大学セミナーに市民として参加した後に、講師として関わった最初の仕事は、「木版画教室」だった。担当は平林正夫さん。大人に教えるのは子ども相手とは違う、と私は考えた。テーマを多摩の民話にし、各自がどこからか民話を拾ってきて、図柄も自分で好きなように思い切って描いてみるのがいい。そのイメージを自分で板に彫って刷る。平林さんも一緒にやってやり始めたのには驚いた。講座終了後も公民館に場所を借り、「国立版画の会」として自主グループへと発展したのは講師としての喜びだった。

平家琵琶の語り

宮脇瑞穂(古典を読む会)

喫茶わいがやのコーヒースタンド。30数年前公民館によく通った。古典の講座が縁で読書会も生まれ現在も続く。メンバーに琵琶の名手がいて、会主催で和室に舞台を

設え、平家物語の「一の谷」を語る会を開いた。満席の聴衆の拍手喝采に気持が高ぶった。懐かしい。若かった。夕飯後、公民館に駆けつけた。松田修、安東次男、小島伸夫など、高名な諸先生方の講義に感銘を受け知的満足を得た。最近新しい出会いの場「言の葉会」が楽しみである。

●なくてはならない場所―公民館三好紀子(公民館運営審議委員会)

公民館で魅力的な人に出会うたびに思います。家に閉じこもっていても勿体ない！ 自主グループ活動も楽しいし、職員が企画する現代の課題講座で意見を交換し、考えを深めることもできます。言葉も実践も未熟な自分を振り返ることは日常茶飯事、人の度量の大きさと優しさに触れうれいと思うことが度重なります。同時代を生きる者同士励まし合い、地域をつくる一市民として次世代とつながりを深める大切な場！ ですね。

●一歩踏み出せば世界は変わる

森下桂子(グリーンコーラス)
遠かった公民館がすっかり近くなりました。「公民館だより」は目にするものの、なかなか踏み込めない場所でした。

コーラスをしたいた窓口に相

談したところ、今練習しているグループがありますから見学されたら、と音楽室へ。ドアが閉まっております、たまたま居合わせた職員の方にノックしてもらい、それがグリーンコーラスとの出会いでした。先生からの気さくな誘いに速入会。あれから3年。和気あいあい。楽しくレッスンしています。一歩踏み出せば世界は変わるのだなと思います。

●市民を支える学びの拠点

山田哲也(公民館運営審議委員会)

10数年前、ふと手に取った「公民館だより」で好きな小説を取りあげた講座に気づき、参加したことがある。講師と参加者でテキストを読み解く内容で、私的な営みの読書を介して見知らぬ人と関わることに気恥ずかしさを覚えつつ、自分が外にひらかれる感覚が心地良かった。縁あって公運審に関わり、毎号の公民館だよりにユネスコ学習権宣言が掲げられていることに気づいた。市民に豊かな学びの場を提供してきた国立市公民館のさらなる発展を応援したい。

●専業主婦と仲間たち

和田由美子(在宅ケアを考える会)

パレット/国立人倶楽部
若いミセスの教室から在宅ケア

まで不思議なご縁ですね、と今年も50年来の仲間から年賀が届きました。国立市民になってから公民館を中心にしてきた仲間達です。「あなたにお母さん、奥さんでない名前あるの」「働かざる者食うべからず」「対価を生まない専業主婦って何だろう」と女性の自立に悩み、今は自分の終末期の自己決定・自己責任がテーマになりました。その軌跡を記録し続ける仲間もいて私達の自立はまさにこれからが本番なのでしょう。
*この度発行した『くにたち公民館60周年記念誌』に、60人分収録しています。

公民館28年度予算について

公民館予算は、約1億1497万円で内訳は表のとおりです。前年度と比較して約6513万円の減額となりました。

主な理由は、公民館熱源機器取替工事や備品購入が完了したことに因ります。その他の予算はほぼ例年どおりとなりました。

■公民館費の当初予算内訳 単位：千円

科目	27年度予算	28年度予算	比較増減
公民館総務費	150,541	85,379	-65,162
人件費	64,392	64,761	369
維持管理費	86,149	20,618	-65,531
公民館事業費	29,561	29,592	31
主催事業費	18,584	17,789	-795
広報費	5,930	6,167	237
図書室費	3,396	3,405	9
若者支援費	1,651	2,231	580
計	180,102	114,971	-65,131

- 一般会計予算 291億2,300万円 (前年度比 7億9,600万円減)
- 教育費総額 24億5,093万3千円 (前年度比 2億2,713万円減)
- 公民館費 1億1,497万1千円 (前年度比 6,513万1千円減)

〈図書室のつどい〉

世界史を変えた薬

講師 佐藤 健太郎 (サイエンスライター)

世界三大感染症のひとつマラリアの特効薬キニーネ、最強の鎮痛剤モルヒネ、20世紀最大の発見ペニシリンなど、著書では10種の感染症治療薬と鎮痛剤の誕生を取り上げ、歴史と医薬の関わりを考察しています。医薬品企業の研究所で新薬の研究に携わり、その可能性と危険性について考える日々を送られた佐藤さんから、医薬が人類に果たした功績と今後の可能性についてお話を伺います。

〈佐藤さんの本〉

『医薬品クライシス』(新潮新書)、『炭素文明論』(新潮選書)、『ゼロリスク社会』の罨』(光文社新書)ほか多数。

とき 5月22日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)
*申し込みは不要です。ご自由においでください。

公民館の会場予約のご案内

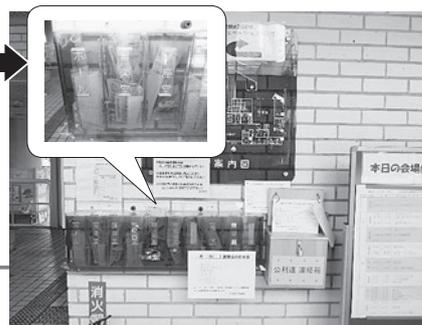
—会場調整会—

公民館の会場をより多くの団体が利用できるよう、毎月、会場調整の場を設けています。

会場調整会に参加する場合は事前の申し込みが必要ですので、下記の手順をご確認ください。なお、会場調整会に参加しなかった場合も、空いている時間帯やお部屋は公民館の窓口でお取りすることができます。

1 「公民館会場等使用調整会参加申込書」の提出

公民館1階入口正面にある会場別ポストに
参加申込書を投入する。
ポスト投入期限は、毎月、調整会直前の木曜日です。



入口正面にあるポスト
参加申込書はこちらへ

2 会場調整会への参加

会場調整会は、毎月第一土曜日午前10時から、地下ホールにて開催しています。使用希望が重なっているときはお互いに話し合い、調整を行います。他のグループと使用希望が重なっている場合、調整会に参加しなかったグループの使用希望は取り消しとなります。

3 本申込による予約の確定

調整の結果は仮予約です。本申込は会場調整会から10日以内にしてください。10日を過ぎると仮予約は無効になります。調整会当日も会場で本申込ができます。

4 会場調整会後の予約方法

会場調整会に参加しなくても、調整会当日の午後2時から、2階事務室で空いている会場の予約を受け付けます。また、電話での仮予約は午後3時から受け付けています。

* 詳細や不明な点は、公民館までお問い合わせください。

* 会場調整会は、公民館利用者連絡会のご協力によって実施しています。

■今後の会場調整会の日程

使用希望月	ロビー使用希望月	申込書のポスト投入期間	会場調整会
28年6月	28年7月	4月2日(土)～5月5日(木)	5月7日(土)午前10時
28年7月	28年8月	5月7日(土)～6月2日(木)	6月4日(土)午前10時
28年8月	28年9月	6月4日(土)～6月30日(木)	7月2日(土)午前10時
28年9月	28年10月	7月2日(土)～8月4日(木)	8月6日(土)午前10時
28年10月	28年11月	8月6日(土)～9月1日(木)	9月3日(土)午前10時
28年11月	28年12月	9月3日(土)～9月29日(木)	10月1日(土)午前10時

〈くにたちブッククラブ 言葉のとげ、境界にたつ文学〉
岩城けい『さようなら、オレンジ』
(ちくま文庫)

講師 **紅野 謙介** (日本大学・日本近代文学)

とき 5月12日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 3階講座室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み
を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

冊子ができました

これらの冊子をお読みにになりたい方は公民館へ
お問い合わせください(数に限りがあります)。



『くにたち公民館60周年記念誌』

市民による60周年記念事業実行委員会の記念誌部会が中心
になって、主にこの10年間の公民館事業やサークル活動
の実績と記念イベントの記録等をまとめました。

くにたちブッククラブ『記憶をたどり歴史を問う』

文学作品を共同で読むことで深められた読みや気づきが
綴られています。講師の紅野謙介さんによる講義録「堀田
善衛『方丈記私記』を読む」も掲載しています。

『第60回 くにたち市民文化祭記録集』

文化祭に参加した団体が、催しの成果を報告していま
す。市内で文化・芸術活動をしている方々の文化祭での写
真も多く載っています。

『国際交流 No.11』

国際理解、多文化共生に関する事業の記録をまとめた冊
子です。日本語講座の学習者が書いた感想文や、日本語教
育入門、多文化共生事業の参加者の声をまとめています。

『平成26・27年度「自立に課題を抱える若者の社会 参加支援事業」実施報告書」(別冊コーヒーハウス)』

これまでの公民館の青年教育事業の蓄積を基礎に、平成
25年度から開始した本事業の実施経過をまとめました。今
回は、新規事業・中高生の学習支援の成果や若者たち自ら
が活動をふり返り、その意味を捉え返す論考を多数掲載で
きました。若者をめぐる「労働」や「セクシュアル・マイ
ノリティ」をテーマにした講演録も掲載しています。



監督 大林宣彦 原作 芦原すなお 音楽 久石譲
出演 林泰文、大森嘉之、浅野忠信、永堀剛敏、佐藤真一
郎、柴山智加、滝沢涼子 ほか

芦原すなおの直木賞受賞作を、『転校生』や『時をかけ
る少女』など瑞々しい青春映画に定評のある大林宣彦監督
が映画化。1960年代を背景に、ベンチャーズの〈デケデケ
デケデケ〉というサウンドに衝撃を受けてロックバンドを
組んだ高校生たちの青春群像を爽やかに描き出す。大林監
督独特の遊び心いっぱいの映像も楽しい青春映画の秀作。

とき 5月22日(日)昼2時～

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

*申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、
定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

近代中国における自伝の誕生

講師 **近藤 光雄**

(一橋大学大学院生*、獨協大学非常勤講師)

1930年代、中国では、社会変革に影響を与えた思想家や
現代文学の建設に携わった作家たちが、こぞって自伝を書き
始めます。理想や信念を掲げ時代を動かしてきた彼らが、な
ぜこの時期に自らの人生を振り返ったのでしょうか。自己を
語ることが、作者、読者、そして中国社会にとって、どのよ
うな意義を持っていたのでしょうか。

胡適、謝冰瑩、巴金といった人たちの自伝を通して、知
識人とその文学が歴史のなかで果たしてきた役割を考えなが
ら、近代中国における自伝誕生の意味を探ります。

とき 5月29日、6月12日(全2回)

いずれも日曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(申込先着順)

申込先 5月10日(火)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生
が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋と
なり、若手研究者と地域社会との交流講座を企画しま
した。最新の研究動向に触れるも良し! 修行中の院
生にアドバイスするも良し! 院生が講師となって専
門分野をご紹介します。

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」について

〈事業の趣旨〉この事業は、社会体育事業として市民の健康づくり、コミュニティーづくりの一環として実施しています。

〈今年度の事業実施について〉年4回の事業開催を予定しており、開催案内は公民館だよりでお知らせします。第1回目は下記の通り開催します。

「街を・山を歩く」第1回目

とき 5月27日(金)〈雨天中止〉
集合 谷保駅北口 朝8時30分
実施方面 神奈川県 大磯方面(距離:約8キロ)
対象 市内在住、在勤者(コース:高低差あり)
チラシ 5月10日(火)から市役所3階生涯学習課、総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布。
申込方法 チラシの内容を確認のうえ、(日程、コース、申込方法等)5月11日(水)から24日(火)の期間に下記までお申し込みください。
申込・問合せ先 教育委員会 生涯学習課
社会教育・体育担当☎(576)2107(直通)

〈古典への招待〉

『雨月物語』を読む

講師 水島 英己(東京純心女子学園講師、詩人)

石川淳、三島由紀夫、村上春樹、そして泉鏡花など多くの作家達に愛読された上田秋成『雨月物語』の九つの作品を5回に分けて読みます。「言葉の森」の中に、現実を離れてさ迷う体験を分かちあいたいと思います。原文の魅力的な響きにも耳を傾けながら、一緒に講読しましょう。

〈使用するテキスト〉

上田秋成『改訂版 雨月物語』(現代語訳付き、鶴月洋訳注、角川ソフィア文庫)。

とき 6月3日、17日、7月1日、15日、29日(全5回)いずれも金曜日、昼2時~4時。
ところ 公民館 3階講座室
定員 25名(先着順)
申込先 5月13日(金)朝9時~
公民館☎(572)5141

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

部屋いっぱいの風船で遊ぼう!

風船を使った運動遊びをしたり、いろいろな種類の風船で遊びます。部屋いっぱいの風船の中で、親子で楽しみましょう。

講師 山田 修平
(NPO法人東京学芸大子ども未来研究所)

とき 6月12日(日)朝10時~12時
ところ 公民館 地下ホール
持ち物 飲み物、動きやすい服装
対象・定員 子ども(3歳以上~小学生)と保護者
18組(先着順)
申込先 5月12日(木)朝9時~
公民館☎(572)5141

*この講座は、さまざまな遊びを通して子どもとふれあい、他の親子や異年齢の子どもたちとの交流しながら、大人として、保護者としてすべきことは何かを感じ取り、考えていく機会となるよう実施しています。



ひろば (8ページにもあります)

フルート会員募集「桜音の会」

半年に一回新曲に取り組んでいます。新しい譜面を手渡された時の戸惑い、少しずつ曲に仕上がっていく喜びは、吹いていて良かったなと感じる瞬間です。

日時 第二、四火曜夜6時~8時
場所 富士見台地域防災センター
連絡先 西村090(1210)2640

「和みくらぶ」会員募集

太極拳のゆったりとした動きは体力や運動神経に係わらず、どんな年代の人でもできるのが魅力です。心も体も芯から強く美しく。まずは体験してみませんか?

日時 毎週金曜日昼3時~5時半
場所 総合体育館 第3体育室
連絡先 山田090(343)0339

くにたち囲碁クラブ会員募集

囲碁を愛好する会員相互の親睦及び棋力向上を目的に活動。会員登録は福祉会館内の「なごみ」に登録した市内在住の60歳以上の方。年会費2千400円。

日時 火祝日を除く毎日。昼1時
場所 福祉会館 2階娛樂室
連絡先 増川090(6104)3450

公民館運営審議会報告

4月12日(火)第18回定例会を開催。委員12名、館長、職員1名が出席。傍聴2名。

前回の議事録確認

4月1日職員人事について、2名の異動、事業嘱託員2名の退職があったことが報告された。今後の事業運営への懸念など、各委員の声をとりまとめ、意見書を提出することとなった。

協議事項

諮問「国立市公民館の事業評価のあり方について」、3月末から職員、行政管理者、市民それぞれを評価の読み手に想定して小委員会の活動を開始、その経過報告を行った。また、次回定例会は、各小委員会から答申のプロット案を提案してもらい、骨子の検討に入る。

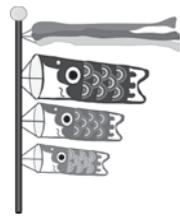
報告事項

公民館だより編集研究委員会 4月号は案内号として、公民館未利用者に対しての呼びかけになつており、さらにわかりやすさを追求することが求められた。連載「60人の声」が引き続き好評。
社会教育委員の会
引き続き諮問「生涯学習推進計画のあり方」を検討、各委員からの意見をとりまとめている。

東京都公民館連絡協議会委員会 28年度は国立市が会長市・事務局市になる。非加盟市への働きかけを課題として引き継ぐ。
次回定例会は5月10日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(長田)

ひろば

(7ページにもあります)



社交ダンスで、いきいき 健康

5月活動は、金曜7時公民館ホール、日曜4時半からひかりプラザ地下で初心者を中心に基礎から公認教師の下で練習しています。見学は開始時間からお願ひします。
日時 金曜7時、日曜4時半以降
場所 公民館 地下ホール他
連絡先 山本080(117)3971

今月の公民館 (5月、6月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 12日(木) 夜 くにとちブッククラブ
- 22日(日) 昼 *CINEVOX公民館映画会
- 22日(日) 昼 *図書室のつどい
- 29日(日) 昼 ~一橋大学大学院生講座
- 6月3日(金) 昼 ~古典への招待
- 12日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう

楽しい吟詠 祥燦流けやき会

始めてみませんか!懇切丁寧に指導致します。幼少年~80歳90歳まで声を出して非常に元気で漢詩・和歌・俳句・新体詩を心に響く吟をめぐりて詠い込みます。
日時 木曜日・土曜日各月3回
場所 福祉会館等
連絡先 井倉(575)6518

くにたち国際友好会 WING

5月の異文化コミュニケーションの会は、一橋大学留学生のフアラザネ・ラティファイさんにイランの歴史や文化、諸事情について紹介していただきます。
日時 5月19日(木)夜6時半
場所 一橋大学 国際交流会館
連絡先 和田090(349)2110

市民が望む公民館職員人事とは

公民館をまもる会連続学習会②なぜ独自の人事のあり方が必要なのか。社会教育の特性を学び市民の立場からあるべき姿を考えます。
日時 5月21日(土)朝10時~12時
場所 公民館 講座室
連絡先 杉原(577)0124

カラオケを楽しむ会 発表会

今年も日頃カラオケを楽しんでいる仲間が皆さんが大勢集まり発表会を行いますのでお友達などお誘い合わせの上皆様ご来場を出演者一同心よりお待ちしております。
日時 5月21日(土)朝10時半
場所 芸小ホール
連絡先 高橋(572)0806

第200回くにしんぼクラブ

台湾留学生会の皆さんと粽祭り
台湾の端午節に食べる粽をいっしょに作りましょう。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。
日時 5月28日(土)昼1時
場所 福祉会館 3階料理講習室
連絡先 八宮(571)1007

原発事故から5年シンポジウム

事故被害者切り捨て問題を日野行介さん(毎日新聞記者)吉田千亜さん(ライター)除本理史さん(大阪市立大)と考えます。福島のことを伝えるプロジェクト主催。
日時 5月28日(土)昼1時半
場所 一橋大学東2号館2201
連絡先 永山080(702)6169

学習会 国立の財政問題と福祉

4月から国保は大幅値上げ、公立保育園の民営化も検討されます。エコノミストの山家悠紀夫さんにお話を伺い、一緒に考えます。
日時 5月29日(日)昼1時半
場所 公民館 集会室
連絡先 上村090(181)8371

国立市民春季卓球大会

種目・シングルス一般男女・小学生男女・中学生男女(予選リーグ及び決勝トーナメント)重複不可。参加費・小中学生500円、一般千円。申込締切5月8日(日)迄。
日時 6月12日(日)朝9時開場
場所 総合体育館
連絡先 外谷(575)4722

〈サークル訪問2016〉

「墨の会」

書と硬筆のグループ「墨の会」の活動拠点は、谷保東集会所である。国立市の東端に位置し、隣の府中市にくく近いところにある。

国立市民になって二十年近い筆者も、ここは知らなかった。代表の井田芝豊さんも、「皆さん、ご存知ないんですよ」とこぼしながら、「でも私たちは月二回、ここに集まって、書のあらゆる書体とペン習字まで研鑽しています」と意気軒昂である。井田さんは八王子の書道芸術学会の「齊家・師範」の称号を持つ実力者である。

会の登録メンバーは三十人ほどだが、毎回通ってくる人は十人くらいとのこと。全員女性で四十代から八十代までと幅が広い。

伺った日は作品の提出日で、提出を決めるべく、次々に井田師匠の判定を受けていた。二枚ずつ並べて、「これは右、次のは左の方がいいわね」という具合である。こうして選定された作品は、書道芸術学会へ送られ、優秀作は月刊誌「方円」に載り、昇級や昇段の対象になるそうである。ちなみに級は、初心の十級から一級まで、その上の段は初段から六段まで、

更に準師範、師範と進み、最高位は齊家・師範である。こうした級／段は、各人の名前と共に「方円」に載るので、自分が今どのレベルにあるのか、一目でわかる仕組みになっている。

「あなたはまたランクが上がっていいわよ。私はこのところずっと停滞なの」という声が聞こえたりするが、傍目にはどれも上手に見える。

レベルは色々でも、元氣な井田さんを中心に雰囲気はくなくやかである。毎年谷保天満宮の新年書道展に出品しているので、多くの市民の方にも見てもらいたい、との皆さんからの希望であった。

稽古日 毎月第一、第三火曜日
午後一時~五時、(谷保東集会所)
連絡先 井田(575)4598
〈文・写真 武内法行〉



筆であそびましょう